

脳神経外科

《概要》

泉州地域における中核病院として、脳神経外科専門診療、救急対応まで幅広く機能しています。医局スタッフは平成21年7月より、2名が増員され、6名態勢となり、種子田護総長のもとで、伊藤守（総長補佐兼副病院長兼脳神経センター長）、森内秀祐（脳神経外科部長兼時間外救急診療部部長）、寺本佳史（脳血管外科部長）、出原誠（医長）、山田公人（副医長）高垣匡寿（医員）の計6人の脳外科専門医で診療にあたっています。

くも膜下出血などの脳神経外科急性期疾患に対していつでも緊急開頭手術、脳血管内治療などの専門的な外科治療が行える体制をとっており、急性脳梗塞に対する経静脈的 tPA 治療も積極的に行っております。脳腫瘍に対する手術治療数は多く、ニューロナビゲーターを用いた安全性と精度の高い外科治療や放射線治療（エクスナイフを含む）、化学療法および免疫療法などの総合的診療も行っています。脊髄疾患、小児脳神経など脳神経外科全般にわたって定型的治療から先進的な専門治療まで展開しており、特に機能的手術では、パーキンソン病に対する深部電極留置による刺激療法、拘縮に対する末梢神経手術、顔面・眼瞼痙攣に対するボトックス治療など行っています。

泉州地域二次医療圏の中で、脳卒中の専門診療のできる急性期病院として位置づけられ、地域からの受け入れ向上に努めております。院内教育にも力を入れており、本院の新臨床研修医の必修研修プログラムである「脳血管障害」を担当しています。

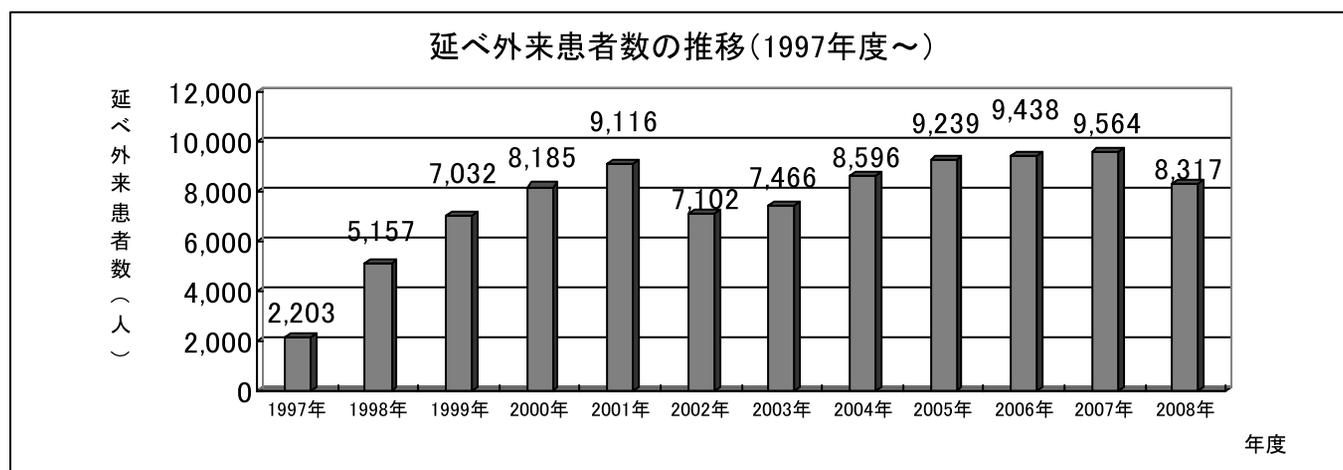
《実績》

（1）患者内訳

1997年10月の診療科新設からの延べ外来患者数と実入院患者数は、下記の通りです。外来患者数は、ここ数年同水準を保っているが紹介率は、45.47%で前年度より上昇しています。2008年度の実入院患者の居住地内訳をみると、泉佐野市32.88%、南大阪泉州地域（和泉市、泉大津市、貝塚市、岸和田市、堺市、泉南市、高石市、阪南市、泉南郡、泉北郡、河内長野市）58.9%、その他の大阪府下8.22%です。南大阪を中心とした広域高度先進医療施設の位置を継続しつつも、地域の病診連携、病々連携関係は充実し、地域医療への貢献の度を維持しています。

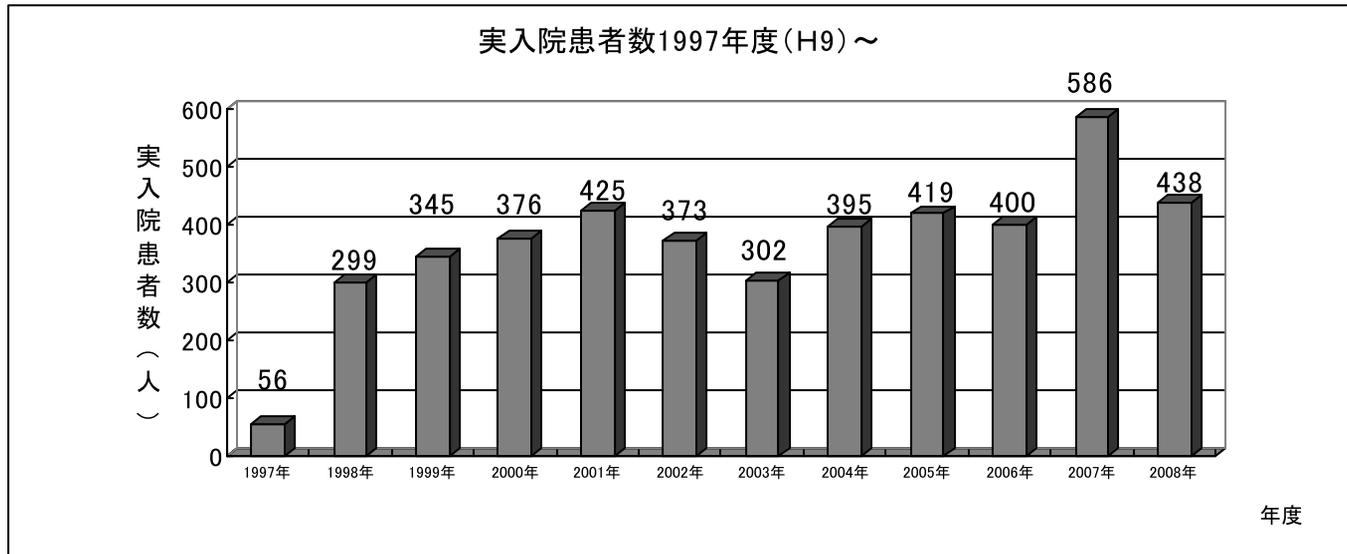
延べ外来患者数の推移

1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
2,203	5,157	7,032	8,185	9,116	7,102	7,466	8,596	9,239	9,438	9,564	8,317



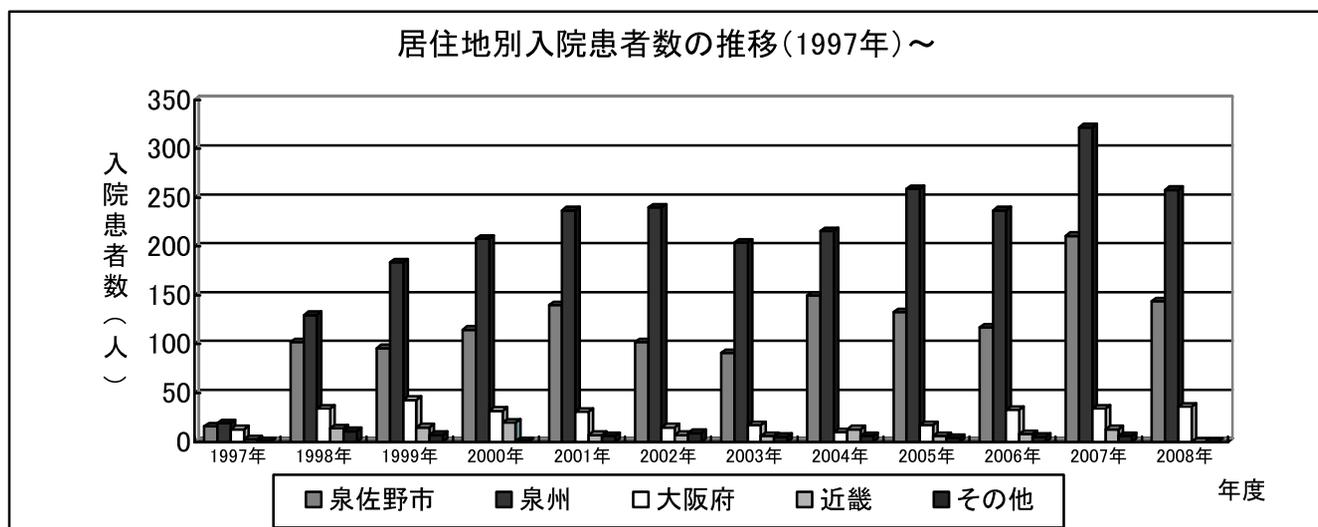
実入院患者数

1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
56	299	345	376	425	373	302	395	419	400	586	438



居住地別入院患者数の推移

	泉佐野市	泉州	大阪府	近畿	その他
1997年	16	19	13	3	1
1998年	102	130	34	14	11
1999年	96	184	43	15	7
2000年	115	208	32	20	1
2001年	140	237	31	7	6
2002年	102	240	15	7	9
2003年	91	204	17	6	5
2004年	150	216	10	13	6
2005年	133	259	17	6	4
2006年	117	237	33	8	5
2007年	211	322	34	13	6
2008年	144	258	36	0	0

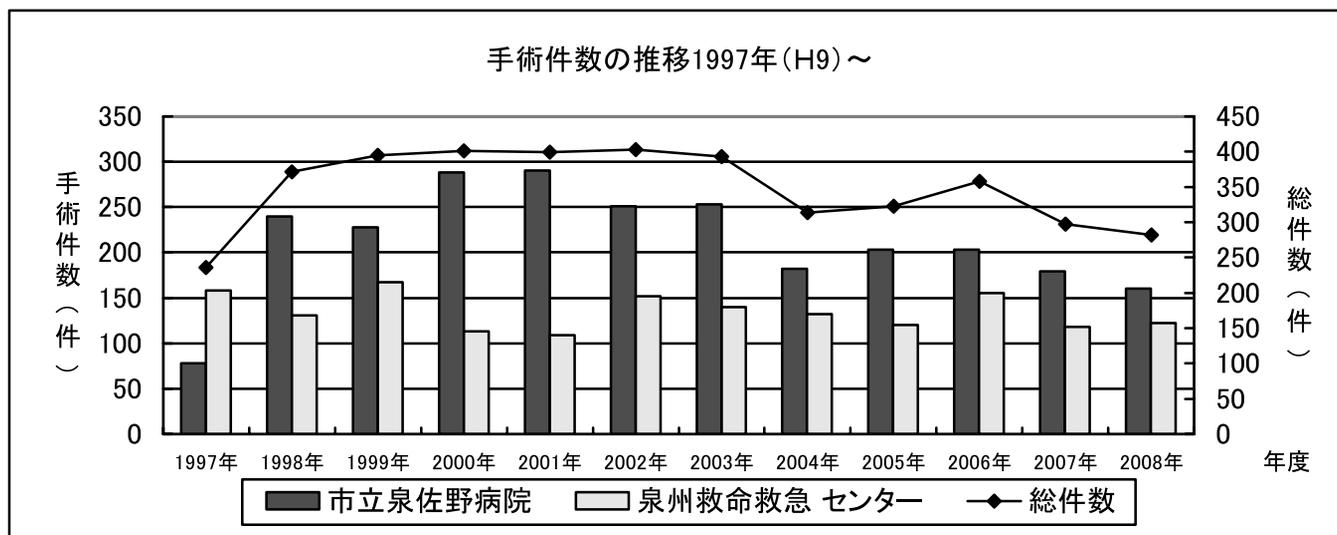


(2) 手術実績 2008. 4. 1～2009. 3. 31

市立泉佐野病院と泉州救命救急センターを併せた総手術件数は、282 件であり、泉州地域の中核病院にふさわしいものである。

手術件数の推移

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
市立泉佐野病院	78	240	228	288	290	251	253	182	203	203	179	160
泉州救命救急センター	158	131	167	113	109	152	140	132	120	155	118	122
総件数	236	371	395	401	399	403	393	314	323	358	297	282



3) その他

- ①日本脳神経外科学会専門医訓練施設 (A 項指定)
- ②日本脳卒中学会研修教育病院
- ③臓器提供施設認定
- ④パーキンソン病治療認定施設
- ⑤ボツリヌス治療許可施設

《業績》

(1) 原著、総説、著書 (2008.4~2009.3)

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	当院における訪日外国人医療の現状	南谷かおり 伊藤 守	日本渡航医学会誌	Vol.2 No.1		2008
2	脳梗塞予防のトピック 頸動脈狭窄に対するステント留置術	伊藤 守	ニュース泉南	第768号		2008
3	頭部MRI拡散強調像で高信号と等信号が混在した高血圧性脳症の1例	宗田高穂 中島義和 伊藤 守 野上浩實	臨床画像	Vol.24 No.7 Jul 2008	932(110)- 935(113)	2008
4	乳癌をともなった深部脳静脈血栓症の1例	宗田高穂 枝川光太郎 辻 潔 出原 誠 中島義和 伊藤 守	臨床神経学	第48巻 第9号	646-650	2008
5	髄液14-3-3蛋白陽性を示した非ヘルペス性急性辺縁系脳炎の1例	宗田高穂 小林謙一郎 中島義和 伊藤 守 川崎 敦	神経内科	Vol.69 No.4 Oct 2008	379-385	2008

(2) 学会研究会報告 (2008.4~2009.3)

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	後頭骨に発生した Congenital fibromatosis の1例	枝川光太郎 中島義和 出原 誠 伊藤 守 今北正美 種子田 護	第67回近畿脳腫瘍研究会	2008.4.5
2	クロイツフェルト・ヤコブ病に類似した、画像所見、髄液所見、脳波所見を呈し非ヘルペス性急性辺縁系脳炎と考えられた一例	小林謙一郎 宗田高穂 枝川光太郎 出原 誠 中島義和 伊藤 守	第185回日本内科学会近畿地方会	2008.6.7
3	ライブによる医療通訳の実際 外国人サポーターから医療通訳そして診療通訳へ	伊藤 守	第2回りんくう国際医療フォーラム	2008.6.14
4	瘤内塞栓術にて治療を行った未破裂椎骨解離性動脈瘤の一例	高垣匡寿 中島義和 福屋章悟 出原 誠 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹	第37回南大阪脳神経外科学研究会	2008.8.9
5	教育講演3「脳動脈瘤塞栓術」座長	種子田 護	第9回近畿脳神経血管内治療学会	2008.9.5
6	動脈瘤様拡張部の塞栓を行った椎骨解離性動脈瘤の一例	福屋章悟 中島義和 高垣匡寿 出原 誠 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹	第56回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	2008.9.13
7	座長	伊藤 守	第3回南泉州脳卒中診療研究会	2008.9.27
8	座長	中島義和	第3回南泉州脳卒中診療研究会	2008.9.27
9	瘤内塞栓術にて治療を行った未破裂椎骨解離性動脈瘤の一例	高垣匡寿 中島義和 福屋章悟 出原 誠 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹	第67回日本脳神経外科学会総会	2008.10.1-3

番号整理	演 題	発 表 者	学 会 ・ 研 究 会 名	年 月 日
10	パーキンソン病に対する脳深部刺激術における短期的症状の改善と長期的な症状の進行および副作用発現の実際	出原 誠 伊藤 守 高垣匡寿 宗田高穂 中島義和 種子田 護	第 67 回日本脳神経外科学会 総会	2008. 10. 1-3
11	地域における脳卒中診療ネットワークの確立:特に病院前救護体制について	中島義和 松岡哲也 出原 誠 高垣匡寿 福屋章悟 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹	第 67 回日本脳神経外科学会 総会	2008. 10. 1-3
12	座長	伊藤 守	泉佐野・泉南地区 脳卒中急性期治療セミナー	2008. 10. 30
13	司会	中島義和	泉佐野・泉南地区 脳卒中急性期治療セミナー	2008. 10. 30
14	Angioguard XP 使用時の CAS における no flow の検討	出原 誠 伊藤 守 高垣匡寿 福屋章悟 中島義和 種子田 護 吉峰俊樹 宗田高穂	第 24 回日本脳神経血管内治療学会	2008. 11. 13-15
15	椎骨脳低動脈系の非出血性解離性動脈瘤に対する血管内治療	高垣匡寿 中島義和 福屋章悟 出原 誠 枝川光太郎 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹 宗田高穂	第 24 回日本脳神経血管内治療学会	2008. 11. 13-15
16	座長	種子田 護	第 38 回大阪脳卒中臨床研究会	2009. 2. 14
17	多臓器障害を伴った脳卒中予防における脳神経外科医の関わり方	伊藤 守 高垣匡寿 出原 誠 中島義和 種子田 護	第 38 回大阪脳卒中臨床研究会	2009. 2. 14
18	特別講演 座長	種子田 護	第 4 回南泉州脳卒中診療研究会	2009. 2. 21
19	座長	伊藤 守	第 4 回南泉州脳卒中診療研究会	2009. 2. 21
20	座長	中島義和	第 4 回南泉州脳卒中診療研究会	2009. 2. 21
21	最近の脳神経血管内治療について	出原 誠 高垣匡寿	第 4 回南泉州脳卒中診療研究会	2009. 2. 21
22	未破裂椎骨動脈解離性動脈瘤に対する血管内治療:動脈瘤様拡張部の塞栓が著効を示した一例	福屋章悟 中島義和 高垣匡寿 出原 誠 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹 宗田高穂	第 38 回日本脳卒中の外科学会	2009. 3. 20-22
23	アンジオガード XP を使用した CAS における no flow 発生時の対策についての検討	出原 誠 伊藤 守 高垣匡寿 福屋章悟 中島義和 種子田 護 吉峰俊樹	第 34 回日本脳卒中学会総会	2009. 3. 20-22
24	当院で経験した出血源不明のくも膜下出血の検討	高垣匡寿 中島義和 福屋章悟 出原 誠 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹 宗田高穂	第 34 回日本脳卒中学会総会	2009. 3. 20-22

番号整理	演 題	発 表 者	学 会 ・ 研 究 会 名	年 月 日
25	椎骨脳底動脈系における動脈解離性病変の検討:特に椎骨動脈本幹以外に局限した病変について	中島義和 藤中俊之 高垣匡寿 出原 誠 福屋章悟 宗田高穂 伊藤 守 種子田 護 吉峰俊樹	第 34 回日本脳卒中学会総会	2009. 3. 20-22
26	当施設における 24 例のアルテプラゼ静注療法使用経験	宗田高穂 高垣匡寿 出原 誠 中島義和 伊藤 守	第 34 回日本脳卒中学会総会	2009. 3. 20-22
27	座長	種子田 護	第 3 回りんくう国際医療フォーラム	2009. 3. 28
28	座長	伊藤 守	第 3 回りんくう国際医療フォーラム	2009. 3. 28

(3) 学術講演 (2008. 4~2009. 3)

番号整理	演 題	発 表 者	発表場所及び対象	年 月 日
1	病態と薬剤から見た最新の脳梗塞治療	伊藤 守	泉佐野・泉南薬剤師会 勉強会	2008. 4. 18
2	J-CASES トレーニングの指導医育成	伊藤 守	J-CASES トレーニング	2008. 4. 20
3	急性期病院における脳神経外科の急性期の患者治療について	中島義和	興和創薬株式会社 堺営業所 社内研修ゼミ	2008. 5. 22
4	地域連携からみた脳梗塞治療における抗血小板療法の標準化の試み	伊藤 守	プラビックス記念座談会	2008. 5. 31
5	小脳梗塞の診断法ー 3 の法則について	伊藤 守	第 9 回泉南勉強会	2008. 9. 11
6	脳卒中の治療、特に tPA と CAS について	高垣匡寿 中島義和	第 107 回臨床集談会	2008. 9. 25
7	アテローム血栓症の病態・治療	伊藤 守	サノフィアベンティス フォーカスイインタビュー	2008. 12. 3
8	脳梗塞における CAS の現状と適応、周期管理	伊藤 守	Medicament News CAS 座談会	2008. 12. 5
9	泉南の地域医療について	伊藤 守	田辺製薬社内勉強会	2008. 12. 22

(4) 研究協力 (2008. 4~2009. 3)

番号整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Telmisartan to Prevent Recurrent Stroke and Cardiovascular Events	Y. Nakajima	N Engl J Med 2008	359	1225-37	2008
2	Aspirin and Extend-Release Dipyridamole versus Clopidogrel for Recurrent Stroke	Y. Nakajima	N Engl J Med 2008	359	1238-51	2008